

子どもたちの安心・安全のために



～未然防止・早期発見・早期対応～



西部教育局

2学期は、運動会や体育祭、文化祭、音楽会などの行事もあり、**学校生活が大変充実する時期**です。子どもたちが目標を持って日々の活動に取り組み、心身ともに大きく成長する**実りの2学期**としたいものです。一方でこの時期は、行事等にかかる時間割の変更による日常のリズムの変化や1学期からの人間関係が変化していく等、**子どもにとってはストレスやとまどいも多くなりがち**です。

子どもの成長を支援し、どの子どももが**安心・安全な学校を実感して充実した2学期を送る**ことができるよう、「**チーム学校での取組**」についてまとめています。

今すぐできる“児童生徒理解”

運動会はみんなよくがんばったし、大成功でした。この調子で、みんなで一つになればいいんじゃないかなあ…。

児童生徒

児童生徒理解のポイントは「見る」「聞く」「認める」！



「みんながんばったね」「みんなよくできたね」という教師の声の陰に、「自分はダメだった」「自分はできなかった」という声がありませんか。行事等での人間関係の変化に戸惑っている子どもはいませんか。「アンテナは高く、センサーは鋭く」することが大切です。

- たよば こんなこと
- ◆ アンケートやQ Uなどの質問紙を活用し、複数の目で分析する。
 - ◆ 相談週間は、全校で時間を確保する。
 - ◆ 命の大切さについて考える時間を作る。
 - ◆ 担任以外の目を大切にし、子どもについての情報収集・情報発信に努める。
 - ◆ 日記や班ノートには必ず目を通し、気になる点を複数の共有しその日のうちに働きかける。
 - ◆ 服装や持ち物の変化に気を配り、子どもに寄り添った働きかけをする。
 - ◆ あまり話さない子どもにこそ、積極的に話しかける。

今すぐできる“共通理解”

とりあえず今までこの方法でうまくいったから、今さらやり方を変えなくてもいいんじゃないかなあ…。

教職員

教職員みんなで共通理解・共通実践！



事件・事故、災害などの外的要因により、子どもたちに何らかの影響が考えられるときには、全教職員の共通理解のもと、共通実践で未然防止に努めなくてはなりません。学校全体の効果が上げるためにはチームで動くことが最も重要です。

- たよば こんなこと
- ◆ 緊急のときは管理職のリーダーシップのもと、同じ方向性を持って実践する。
 - ◆ 校務分掌を再確認し、組織として一人一人がすべきことを再確認する。
 - ◆ 共通理解・共通実践のもとで、一人一人の持ち味を生かす。
 - ◆ 緊急時の対応等についての再確認をする。
 - ◆ 開かれた学校として外部講師等を招聘し取組についての評価を受け確認を行う。
 - ◆ 校内研究便り等を活用し、情報共有の場を増やす。

今すぐできる“保護者との連携”

子どもたちの様子はよくわかっているから、保護者と連絡を取るの、何かあったときでよいのでは…。

保護者

保護者との連携を通して理解する家庭の顔！



子どもには、3つの顔があると言われる。学校の顔、家庭の顔、地域の顔を理解することは、児童生徒の健全育成および問題行動等の未然防止に不可欠です。特に、人格の形成に大きな役割を果たす家庭環境を知ることは、児童生徒理解のために欠かすことはできません。

- たよば こんなこと
- ◆ 日頃から、学級通信、学校便りなどにより、学級・学校の取組や子どもの様子を情報発信。通信は文字を少なく、平易な文章で表現する。
 - ◆ 保護者につながる努力・工夫をする。特に気になる子どもの保護者とは、意図的に話をする機会をつくる。
 - ◆ 保護者との話では、よさを伝えることが基本。まずは関係づくりを。
 - ◆ まずは学級役員を巻き込む。保護者同士をつなぐことも効果的。特に、低学年で保護者がつながると、協力も得やすくなる。
 - ◆ 大切な用件は、電話で済ませず、家庭訪問で直接話をする。